

## 教育現場における家政教育の現状と課題（第2報）

—高等学校教員の調査を通して—

○飯塚和子\* 室 雅子\* 高部和子\*\* \*お茶女大・院、\*\*大妻女大

目的：第一報に同じ。

方法：調査手法、時期は第一報に同じ。調査対象者は全国の高等学校家庭科教員285名。有効回答数148。(回収率51.9%)

結果：①教員の出身学部は、家政系食物が全体の1/3以上ともっとも多く、ついで教員養成系(家庭)、家政系被服が多い。②教員の履修経歴は被服・食物領域が他領域より特に高かった。その中でも「献立と調理」「栄養」「食品の性質」「洋服の製作」「被服材料」の学習率は8割を超えている。③一方、家庭経営領域の「高齢者の福祉」、住居領域の「環境問題」、その他の領域の「情報処理」は十分に学習していない割合が8割を超えていた。④学習が役立っていない内容は「和服の製作」「食品加工」「インテリア」等であった。⑤教員がもっと学ばなかった領域は「高齢者の福祉」「環境問題」が特に多く、ついで「消費者問題」「情報処理」「食品添加物」であった。これらの内容は学習経歴の結果と呼応している。⑥家庭経営領域で教えている内容は「家族関係」「高齢化社会」関連の内容が多く、「家庭経済」「生活管理」に関連した内容は教えていない者も多かった。⑦家庭経営領域で教えるにくい内容に対する理由としては「生徒のプライバシーや価値観に抵触する」「正誤で提示できない内容である」と並んで「生徒に生活実践がない」が挙げられた。以上のように高等学校の分析結果からも中学校と類似的傾向が得られた。これらの結果から家庭科が現代の社会生活における今日的な問題と直結していること、家政教育に社会と連動する今日的な視点に立った教科教育の要請がなされていることが明らかにされた。